



杏林大学 総合政策学部 菅原ゼミナール

Think globally, act locally.

## 2005年 北海道合宿レポート

2005年11月10日(木)～13日(日)



(小樽のオルゴール堂の前で)

杏林大学 菅原秀幸研究室

[www.SugawaraOnline.com](http://www.SugawaraOnline.com)

## 「北海道合宿を終えて～個人目的の検証～」 3年 三宅 辰典

- 1、交流会について
- 2、企業訪問について
- 3、全体を通して
  - \* 反省点
  - \* 改善点
  - \* 最重要目的への到達度



### 1、交流会について

個人目的で書いたことを実行に移すべく、私は早急に菅原ゼミナール紹介のプレゼンの案を模索した。あまり良い案は思いつかなかったが、自分なりにわかりやすく、ポイントをおさえながら、合宿五日前にはプレゼン内容&パワーポイントを完成させた。この時点で、目標に掲げていた「事前の準備」はクリアしていたと思う。しかし問題は、北海学園大学というアウェーの地で、尻込みすることなくプレゼンができるかどうかだ。

初めのうちはかなり緊張したが、プレゼンが始まるとすぐに「事前の準備」の効果が表れた。考えがきちんと固まっていたので、堂々とした態度でプレゼンすることができ、逆に北海学園の学生に国際ボランティアの協力を投げかける余裕も生まれた。

しかし今回のプレゼン、自分で点数をつけるなら50点だ。もちろん満足はしていない。もっと良いものを作れたと思っている。周囲の反応は良かったのかもしれない。しかし、そこで満足できない自分がいるということは、まだまだ自分の持つ可能性が試されていないということになる。私は、自分の持つ可能性をもっと伸ばすことに専念したい。

そう思わせた今回の交流会は、自分にとって人生の分岐点だったといっても過言ではない。本当にすばらしい体験だった。

### 2、企業訪問について

私が企業訪問前に取り組んだことは、訪問先の企業の情報分析である。この情報分析のおかげで企業のプレゼンをより意欲的に聞くことができ、質問事項もすぐに思いついた。ここでも「事前の準備」がいかに大切であるかを改めて実感した。

「積極的に参加する」というのが今回の企業訪問の目的だった。そんなの当たり前だと思うだろうが、当たり前なことほど難しいものはない。当たり前のことを当たり前でできなければ社会にでも通用しない。私は自分のことを大学生ではなく、社会人であることを想定して企業訪問に参加した。これからの就職活動でも同じ気持ちでやっていきたいと思っている。この先就職活動も忙しくなるが、今回の企業訪問の経験は今後の自分に大きく影響を与えてくれる良い経験になったと思う。

### 3、全体を通して

#### \*反省点

「報告・連絡・相談」のステップは前回の沖縄合宿よりも大幅に改善されたが、まだまだ充実したものとは言えなかった。

#### \*改善点

ゼミ生全員に上記のステップをしっかり自覚させると同時に、合宿時だけではなく普段から「報告・連絡・相談」を徹底させる。

#### \*最重要目的への到達度

到達度 40%

ゼミ長として、ゼミ全体の統率を図るためにできることなら何でもやったが、もっと効率よくゼミをまとめることができたのではないかと思う。そのためには自分に何が欠けていたか、どのように工夫すればいいかを十分理解し、次の合宿時に力が発揮できるようにしたい。

## 3つの目標を達成出来なかった北海道合宿

3年 中村勇介

今回の北海道合宿は私だけ1泊2日という日程でしたが3泊4日を過ごした18人のゼミ生に対して旅行係として北海道を3泊4日でホテル、往復の航空チケット込みで一人26800円のツアーを探す事が出来たのはゼミ生に貢献できたと思う。今回私が目標に掲げていたのは 交流会後のミーティング グループ行動 行動にメリハリをつける、の3つでした。

### 北海学園大学との交流会

大平ゼミの方々と互いに普段行っている研究内容を発表し、その後に質疑応答が行われた。菅原ゼミの研究内容を発表したのはゼミ長の三宅君で発表内容も全てゼミ長一人で準備していた。フロッピーディスクに発表のデータを保存していたのは格好悪かったが、堂々と最後まで菅原ゼミの普段行っている活動を大平ゼミの方々に伝えていて頼もしかった。

次に大平ゼミ生が行っている海水屋本舗の営業の宣伝を聞いた、海洋深層水を使った関連商品は健康へ与える影響が良いと知ることが出来た、私が交流会で一番驚いたのは大平ゼミの学生8名が小さな会社を自ら作り営業や広報、商品管理などの役割分担を決め商品を販売している事で、扱っている商品も体に良くお豆腐や天然水と自信を持って消費者に勧めることが出来ることから時代のニーズにあった

会社を運営していた。

学生でも会社を立ち上げて活動できることを初めて目の前で見た、今は、やろうと行動に移せば出来るのだという考え方に変わることが出来た交流会だったと思う。大平ゼミはもう一つ旭山動物園についてのプレゼンを行った、これは菅原ゼミの学生が北海道を観光する際にオススメの場所としてプレゼンを行ってくれました、一度は閉園の危機をむかえた旭山動物園の 97 年から始まった設備投資の再編が見所で時間をかけて、わかりやすくプレゼンを行っていた、このプレゼンは 4 人が分担をして行っていた、このようなプレゼンの方法があることをこの時初めて知ることとなる。6 ページ目の動物たちの映像はすごいと思った。質問の時 2 年生が積極的に質問をしていた、私は質問することが出来なかった。目標に掲げていた良かった点、悪かった点を交流会が終わった後に行うということも達成することが出来ず、ただプレゼンを聞く受身のまま交流会は終わってしまった。

### グループ行動

午前 11 時頃に北海道大学に到着して大学内を見学した。しかし満足のいく内容にはならなかった、それは北海道大学での行動が事前に準備出来てなかったことにより、現地に着いてから何をするかを決めた為、時間を有効に使えなかった。話し合いの中で授業を見学する案もあったが時間が 11 時と遅く却下となる、さかのぼると朝の出発（ホテルを出る）が遅れた事が原因だった。ホテルを出る時間を統一する必要があった、この時自由の中には責任が伴うことを実感した。ゼミ生と交流をすることを目標に掲げていたが自分から積極的に話しかけることをしなかった、また、行動にメリハリをつけるという目標も達成出来なかった。今回の北海道合宿で 3 つの目標に掲げていたが 1 つも達成出来なかった、原因はハッキリしていてゼミの時にみんなで話し合い改善します。

### 全体を通して

私は短い日程でしたが、2 つの大事なことを実感することが出来たと思う。

- 1 . 一歩踏み出すことが出来れば学生の頃に会社を作ることが出来ることを知る。
- 2 . 特にグループ行動において行うことが明確でない場合しっかり計画を立てなければうまくいかないことを実感する

特に、1 はやろうと置いて行動に移せなかった自分に対して勇気をもらい、やってみようの気持ちになれた、これは今回の合宿の一番の収穫だったと思う。

欠けていた『thinking』と『action』

3 年 玉城 貴洋

今回の北海道合宿は、自分にとって本当に貴重な時間を過ごすことができた。しかし、個人の目標が確実に達成されたか、というところを否定せざるを得ない結果となってしまった。以下に、事前に私が重視した三点のことについて検証する。

まず、北海学園との交流会である。ここで私は、ディスカッションでは積極的に自分の意見を言いたい、と合宿前に思っていた。しかし、実際は、意見の一つどころか質問もできずに終わってしまった。大失態である。それに比べて、三宅君は、自分のプレゼンをして、意見も言い、積極性を持ってこの交

流会に臨んでいた。『練習(ゼミ時)でできないことを本番(交流会)でできるわけがない』と、私は反省した。こうした失態をさらさない為にも、ゼミのディスカッションでは積極的に自分の意見を言って、経験をつんで次回の合宿に臨みたいと考える。

次に、グループ行動である。ここでも私は受身の姿勢を取ってしまった。私のグループには三年生が四人もいたので、私は他の三人に任せっきりで結果として自分の意見を出すことをせず、傍観者となり皆の意見を聞いてついていくだけであった。私は、交流会同様に『積極性』を出すことなく、またしても失態をさらけ出したのである。次回の合宿では、こうした行動をしないためにも、事前にグループで集まって話し合いをする場を設ける必要がある。そうしないとまた、その場の流れに流されて誰かに任せればいいのかという受身の姿勢が自然と生じてくる、と私は考えるからである。

最後に、後輩たちと打ち解けることである。これは個人的にはできたと考えている。別に多くのことを語り合ったわけではない。しかし、彼らを避けることはしなかったと思うし、少しでも彼らとの距離が縮んだと信じているので、本当に嬉しい。まだ、頼もしい先輩にはなれていないので、これからの一年でそう思われるためにも、引き続きゼミで積極的に彼らとのコミュニケーションをはかり、助けが必要なときはアドバイスもしていきたいと考えている。

以上が、合宿前に重視した三点である。個人としての結果は全体を通して決して良いものではなかった。しかし、その中でもプラスになったこともあったので、次回はマイナスよりプラスが多くなるように、事前準備をしっかりとやる必要があると私は考える。そのためには、菅原ゼミでの貴重な時間をただらたらと無駄に過ごすのではなく、『常に考えて積極的に行動すること』がこれからの個人的な目標となる。

## My Good Points and Bad Points

3年 和田 晃

### 北海道合宿のGOOD POINT

- 1、NGOでの
- 2、グループ行動
- 3、仲間とのふれあい

#### 1、NGOでの

NGOでジェームス氏の話の中での、医療の外国人向けの相談の話聞いて、もともと医療系に興味があった私は、とても真剣に聞いて、きちんと意見を言えて、今までの自分の中でとてもいいディスカッションができて、ジェームズさんとも仲良くなれて、NGO訪問は私の中で充実していた。

#### 2、グループ行動

私たちはJRタワー、北海道大学、北海道放送、テレビ塔、道庁をグループ行動でまわった。4人行動で私以外の3人は2年生で、みんな私がいなくてもどんどん積極的に質問したりしていた。正直、2年生が詰まったら3年生が手を貸すという計画だったが、その必要はぜんぜんなく、意見のぶつかりもなく、自分はとても関心したと同時にとてもよく企業をすいすいまわられたので楽しかった。

#### 3、仲間とのふれあい

自分の合宿の主な目標は2年生とのふれあいを深めることであった。この合宿でとても2年生と仲

良くなれて、名前で呼んだり、あだ名で呼ばれたりするくらいの仲の深まりを築けて、今まで後輩が少なかった私にとって、とてもうれしい、楽しい合宿になった。

#### 北海道合宿のBADPOINT

- 1、苗穂工場での
- 2、3年生でのかたまり
- 3、富田さんへの質問

##### 1、苗穂工場での

合宿の前の夜、2日目の夜、あまり睡眠をとらずに苗穂工場を見学して、説明を企業の人が行っていた最中に寝てしまったのがこの合宿最大のBADPOINTである。自分の体調を管理できないのは自分のせいなので、自分にとっても反省し、企業の人にはとても失礼なことをしてしまった。

##### 2、3年生でのかたまり

この合宿で2年生とは仲よくなったが、3年生とくっついた状態でのふれあいが多かった。一人で2年生の輪に入っていくぐらいの勢いがあればまた違った感じの2年生とのふかまりがあったと思うので、これからはがんばって一人でも2年生の輪に入っていきよう心掛けたい。

##### 3、富田さんへの質問

これから就職に向けて一生懸命活動する私にとって、今年就職した富田さんには、就職活動の時期、面接のときの態度、筆記試験の対応、就職活動の準備を聞いておけばよかった。今年就職した富田さんが自分の中で一番説得力があるので、チャンスを逃してしまった。

この合宿をやって、自分のいい所、悪い所が見えたので、いい所は伸ばして、悪い所は直すようにして、次の合宿に備えたい。でも、合宿の一番の目標「2年生とのふれあい」が達成できて、自分たちで計画したのもあり、とても充実した合宿になったのでよかった。

#### 北の国から

3年 高野 渉

北の国から3つの愛を報告します。

1. 後輩たちとの愛
2. 菅原先生との愛
3. 菅原ゼミへの愛

1. 今回の北海道合宿での自分の最大の目標である後輩とのコミュニケーションが深まり、大変嬉しかった。それにより、夜中に自発的にみんなでディスカッションをし、今後菅原ゼミをさらに盛り上げるための信頼という基盤を生み出すことができた。

2. 先生とは今までちゃんと打ち解けてない自分がいたので、今回飲み会の機会は自分にとって大変貴重な経験となった。また、先生のギャグに笑いすぎたため、ケンカキックをくらってしまいそこは

反省すべきところであった。

3. なんとんでも自分たち3年が一番上の立場になり、菅原ゼミをひっぱってくるのに前回沖縄合宿にはない緊張と責任を感じた。そして常にまわりのことを考え、先を見据えた行動ができるようになったことが嬉しかった。オルゴール堂で遅刻したことはおおいに反省して次につなぎたい。また、今回の合宿はとても楽しい中にもしまりがあって、めりはりの効いたとてもよい合宿だった。このゼミに入れたことが幸せであり、この環境を無駄にしないようさらなる頑張り、つまりインターネットをつなげIT力を高めることが今後の最大の目標である。

以上この3つの愛が北の国、北海道合宿で学んだ愛でした。

追伸。

今回の合宿の反省として3つのポイントをまとめました。

1. 計画性のなさ
2. 自己管理の徹底
3. 発言の自発性

この3つがこれからの重点として次の合宿までに克服したい。



北海道合宿で学んだこと

二年 菅田 頌平

今回の合宿について、主だったポイントごとに学んだことを書いていこうと思う。そして最後に全体の考察を考えていく。

### 北海学園との交流会

まず北海道に着いてから北海学園大学との勉強会があった。自分にとって初めての他大学との交流と

ということもあり楽しみにしていたが、思っていたよりも感動はなかった。自分たちの計画が全体的に甘かったのだと思う。交流会では普段の自分たちとは違った手法でのプレゼンテーションを体験出来た。

普段菅原ゼミでは一人でプレゼンするのにに対し、大平ゼミではグループによるプレゼンが行われていた。予め発表原稿を作成し、基本的にはそれに沿って発表を進めていく。パワーポイントを前面に押し出した手法だった。自分達が発表するパワーポイントのレジユメを配布していたのには良いことだなと思った。交代制で原稿を読み、進行は極めてスムーズ。予め読む内容も決めているため内容は濃かった。

その一方で、原稿を読むスピードや声の大きさ以外に発表者の違いがなく個性が出にくい印象を受けた。また原稿を読んでいるだけなので単調なプレゼンになりやすく、聞き手を惹きつけるインパクトが何か欲しかった。

こちらの発表は三宅先輩による菅原ゼミの紹介。自分は発表ギリギリまで交流会で何をするのか知らなかった、三宅先輩一人に全て任せる形になってしまい申し訳なかったと思っている。その後北海学園と飲み会を行ったが向こうのゼミ生の参加が少なかったのが残念だった。

## グループ行動

二日目、自分達のグループは札幌駅 北大 雪印工事 札幌ビール園 ススキノというコースをとった。途中雨に降られたりしたが楽しく札幌観光が出来た。全てが予定通りとは行かなかったが、メンバー同士の絆は深まったと思う。初の北海道では食べ物にいちいち感動しっぱなしだった。途中天気が崩れてしまい雨に降られてしまったのは残念だった。あとやっぱり寒かった。

計画では札幌を出ての観光を予定していたが、地図上で見るのと実際動いてみるのでは大きなギャップがあった。それだけ北海道はでかいということなのか？知らない土地で行動するのは想像していたよりも大変で、新宿・渋谷・池袋を移動するのはわけが違う。都心に比べ道路・歩道の幅が広く、各方面にきちんと整備されていたのは北海道の主要行動手段が車だからだと思う。札幌市内は京都の平安京を元にして作られているそうで、地図はものすごく見やすかった。バスでの移動がもっとスムーズに出来れば時間を無駄なく使えたと思う。事前に準備することも大切だが何故グループで行動しているかを考え、行動することが大切だと感じた。

## 企業・NGO訪問

合宿3日目、午前はJR北海道、午後はウェルカムハウスを訪問した。JR北海道では休日だということに、時間を作っていただいた。技術開発部の佐藤さんからデュアル・モード・ビークル(以下、DMVと記述)についての説明を受ける。現在はまだ試験段階でたくさんの解決すべき課題が残されているとのこと。しかしDMVに乗った時のあの乗り心地は、未体験に近いものがあった。あえていうならジェットコースター。あれなら観光としても使える気がした。世界レベルでの技術面の発達が今回の実用化に向けて大きな要因のひとつとおっしゃっていたが、佐藤さんたちの夢をあきらめない気持ちが大きな要因だと思った。

NGOのウェルカムハウスではジェームズさんから日本語でお話を聞かせていただいた。活動内容は、日本と外国の架け橋となるべく交流の場を提供する活動をなさっているとのこと。北海道内での活動が主で、ウェルカムハウスのような団体ももっともっとたくさん必要だとおっしゃっていた。自分の偏見だけで人を見てはいけないし、相手を理解しようとする姿勢が大事。そして日本人は身近にいる異文化にもっと自分から歩みよることが大切だと学んだ。今ある状況に満足してはいけないし、当たり前

だと思うのではなく常に周りを意識する。「友達同士なら国籍は関係ないでしょう？」そう自分達に話しかけてくださったジェームズさんは、とても気さくな人でヒゲが魅力的な面白い人だった。企業訪問は全体を通して自分達の甘さが出てしまった。社会に出ている先輩方が話しをしている前でウトウトする、ましてや寝るなんてことは問題外。約束された時間を守れないのも失礼極まりないこと。自分は体調管理ができていなかった、そして社会に接するという自覚を持てなかったのは恥ずかしいことだ。

## 個人行動

最終日は個人行動日で、ゼミ生がおのおの予定を立てて別行動だった。合宿を通してゼミ生同士がバラバラに行動するのはこの日だけで、自分はアイヌ民族の集落があったという白老に行ってきた。白老のアイヌ民族博物館に行き、春と秋の年二回行われるコタンノミ(集落の祭り)に参加してきた。アイヌの伝統的な季節観では一年は夏年と冬年の二季に分かれ、それぞれの季節の初めには、今季も自然の恵みが豊かでありますように、また皆が健康に生活できますようにと集落や家の祭神に祈願するそうでそれがコタンノミである。

偶然にも儀式と個人行動の日が重なったため、参加することができた。現在このようなアイヌの儀式が行われることが少なく、また儀式の詳細を知るアイヌがほとんど残っていないのが現状。儀式は厳かに行われ、儀式中に使われるアイヌ語は外国語と同じで自分にはまったくわからなかった。隣に座っていたアイヌのおばあさんに繰り返し行われる所作を教えてもらい説明を受けた。アイヌ男性が相手に敬意を表するときに行う所作で、両手を数回すり合わせてから掌を上に向け数回上下させる。オンカミと呼ばれるこの所作は儀式だけでなく、アイヌの日常でも挨拶や感謝の気持ちを伝えるときによく使われていたそうだ。教えてもらった所作をしていると自分もアイヌにつながれた気がして嬉しかった。アイヌと一言に言っても集落ごとに作法が違ったり、儀式のやり方も違ったりするのだそうだ。今ではアイヌ人も北海道各地に散らばってしまっていて、現代の生活に溶け込んでいるとのこと。だからこそアイヌの文化・伝統的な儀式を継承して伝え残していきたいと話してくださった。

## 全体の考察

初めての合宿ということで手探りとなった部分が多かった。お互いのことが良くわからない中での共同生活、終えてみて残された課題も多い。全体の活動に共通して言えることは、ハウ・レン・ソウの不足。合宿は行く前、準備の段階から始まっているのである。各係りがバラバラに動くのではなくもっと連絡を取り合うべきだった。そして誰かにやらせるのではなく、やろう！と思う雰囲気やゼミ全体を持たせる。ただ企画に乗っかっていればいいという考えは捨てる。

ウェルカムハウスのジェームズさんがおっしゃられたように、今ある状況に満足するのではなく常に周りを意識する、学ぼうという姿勢が大切である。ゼミ生各自が目標を立てそれに向かって日々学ぶ、自主的に活動しなければ意味がない。それから合宿中ミーティングらしいミーティングができなかったのは致命的な気がする。なぜグループ行動なのか？個人行動なのか？企業・NGO訪問するのはなぜか？もっと考えることが必要。ゼミ生間の交流は活動を進める上で大事なことだ、しかし合宿の活動を通して、活動内容をどうするか準備を進める中での話し合いも交流になる。意見を出し合い議論することで見えてくる相手の姿もある。今回学んだこと反省を次回の活動に活かしたい。そして合宿中にお世話になった企業・NGOの方々、北海学園の大平ゼミ、先輩の富田さんには感謝でいっぱい。最後に、みんな合宿お疲れ様。

11月10日から13日まで北海道の札幌でゼミの合宿が行われた。「ゼミの統率を図る」「個人の目標は達成できたのか」について以下の3つにまとめた。

「ゼミの統率を図る」

合宿前のゼミ内の団結力  
合宿で得たもの  
これからの課題

「個人の目標は達成できたのか」

目標設定  
達成度  
これからの課題

「ゼミの統率を図る」

合宿前のゼミ内の団結力

今回の合宿が始まる前に、個人が団結し全体の調和を図ることは学祭の時だけだった。それまでは男は男と女は女、2年は2年、3年は3年と自分たちの行動の範囲は極端に狭く、また、それぞれ意見を出し合うことに消極的でもあった。

学祭後はそれなりにまとまりができてきてはいたがどこか人任せというところが出てきてしまっていた。それを踏まえて今回の合宿では個人が積極的に行動し、かつ全体の統率を図ることが目的であった。

合宿で得たもの

合宿では今まで学内だけの生活であったのが、寝食を共にする生活になったために、より親睦を深め易い環境になった。その結果、今までの狭い行動範囲からゼミ内全体へと広がったために、全体で行動することが容易になってきた。

しかも、全体が「ゼミ内の統率を図る」ということを念頭に置いていたために個人の意識が高まり、意見を言うことや、計画を立てること、反省することが一人ではなく全体でできるようになっていった。

だが、これらすべてがプラスの面に働くわけではなかったということも知った。一人一人が積極的に行動することは当然、衝突を招くことにもつながる。また、消極的な面が出てきてしまうということもあった。

これからの課題

これからこのゼミで生活していくうえで、積極性ということをおぼえてはいけない。また、ただ積極的になるわけではなく、全体の調和も考えなければいけないということも頭に入れておかなばならない。それを全体が無理なく実行することができればこのゼミの統率力はすばらしいものになり、「他と違うことをやる」という命題に近づけるはずだ。

「個人の目標は達成できたのか」

### 目標設定

先にも述べたように「積極的」ということも個人の目標に入れていた。それに加えて、北海道の自然、経済、人間を追及することも目標に入れていた。

### 達成度

北海道の自然は圧巻の一言だった。最終日に「野幌森林公園」に行き、北海道の森の中を歩いたが、東京とは完全に違うものという印象が強く残った。気候が違うので生息する植物も当然変わってくるのだが、「人工の自然」ではなく「自然の自然」という印象が強く衝撃を受けた。中でも公園内にある「瑞穂の池」はその雄大さや周りの自然の美しさに感動を覚えた。

経済に関しては、東京と比較すると「人が少ない」というのが印象的だった。中心の札幌駅周辺やすずきの周辺も、東京のそれに近い新宿駅周辺に比べると半分も満たないほどの人数で、店も客が少ないということを感じた。東京に比べると人口密度は明らかに低いということは知ってはいたが、こんなにも人が少ないとは思ってもいなかった。場所が変わるだけで印象も変わり、なおかつ経済のあり方も違うという経済の基礎を体で感じてきた。

人間はどちらかというとき接し易いという感覚があったので、自分自身も積極的になるという意識が高められるいい環境であった。

中でも、アイヌの人たちの技術には驚いた。小金湯温泉にあるアイヌ文化交流センターに行き手工芸品や建築技術を見てまわった。特に装飾品は綺麗で細かな細工が施してあり、とてもすばらしかった。

しかし、人権になると差別を受けるという事実と直面し、就職できないこと、結婚を断られたこと、学校生活を楽しく送れないなど、ひどい現実もリアルに感じることもできた。

### これからの課題

全体を通してみると、「もう少しできたのではないか」という思いが残った。これは計画の段階で盛り込みすぎたために、実行に移すことができず、良い結果が伴わなかったことにつながってしまった。これを改善することを、これからゼミでの経験や結果で学ばねばならない。



目標は

- 1、メンバーとの距離を縮める。そして笑顔で合宿を終える。
- 2、合宿の意味を理解する。
- 3、北海道を食でも楽しむ。

というものだった。

今回の合宿は良い点と悪い点がはっきりと分かれた合宿だった。

良い点としてゼミの先輩、同学年関係なく全員と親しく話げできた。苦手だなと思っていた人とも打ち解けて話げできたことはこれからのゼミの活動にプラスになったと思う。

二日目のグループ行動ではとても有意義に過ごせた。アポなしであったことは反省点であるが、北海道テレビに企業訪問をして、今まで考えていたシステムとは逆であることが分かった。その他にはアイヌ博物館に行き、今まではそれまで興味がなかったが知ることによって国内での人種差別について考えさせられた。もっと深くまで知りたいと思った。

三日目の NGO の企業訪問では以前から興味があった政府の外国人政策の対応の遅さについて質問できて、NGO からの意見と政府と NGO の二間の現状を知ることができた。

目標にあげた北海道の名産を食べるという目標は果たしたといっても過言ではない。一日目に海鮮丼を食べて、二日目に蟹を食べ放題のコースで食べ、三日目にラーメン、最終日にジンギスカンと先生のお薦めの寿司を食べ、お金は無くなったけど全部がおいしくてとても食の面では大満足だった。

悪い点としては三日目の JR への企業訪問である。今回の合宿の趣旨である企業訪問の大切さを理解せずに体調管理を整えられず集中できなかった。楽しいことは楽しい、しめるところはしめなければならないのに前日にそのことを考えずに行動をしてしまった。聞きたいことがあったのに体調管理ができなかった自分に自己嫌悪だし、JR の方々に申し訳ないことをしてしまった。これからは行動の趣旨を理解して、何をすべきかを理解し行動する。

二日目の企業訪問をアポなしでできたのは結果としては良かったが、2、3か所アポなしであったため断られた。行く前にあまり深く考えなかったため無駄な時間を使ってしまった。企業訪問できたことは良かったがもう大学生なのでしっかり準備してチャレンジしていく。

初日の北海学園大学との交流会で質問を全然できなかった。目標では頭で考え、分からないことがあれば質問をすと言っていたのに、頭で考えようとせずに今までのように流されていた自分がいた。初日から積極的にいけなかったところで質問をしたゼミのメンバーに遅れをとってしまった。最初から集中して合宿に望むべきであった。

目標では、笑顔で合宿を終えるといっていたが、疲れて合宿を笑顔で迎えられなかった。

親しくなった分一人一人素が出てきて衝突があたりしたが、自分の悪い点、反省すべき点を全員が理解しもっと深い関係になっていきたいと思う。個人の反省のまとめとしては、全体的に人任せになったりしたところが何箇所もあった。よって積極的に準備、行動をすることが重要であり自分のためになることがわかった。反省した分課題もわかったので、次の合宿、これからの行動では必ず同じ失敗を繰り返さない。

今合宿では、事前に各自「Plan（計画） Do（実行） See（評価）」を目的として目標を立て、北海道合宿に臨んだ。私は1.「ゼミの仲間が一つになり、一つの大きな輪を築く」2.「大平ゼミに圧倒されぬよう、事前に対策を練って自分の考えを伝える」3.「北海道の風情・味覚・空気を存分に味わう」の3つの目標を立てた。

まず、1つ目の目標である「ゼミの仲間が一つになり、一つの大きな輪を築く」は、十分に達成できたと思う。合宿前までは全く話したことの無い2年生や先輩とも、飲み会や企業訪問などで行動を共にし、自身から積極的に話しかけ、合宿前までは出せなかった「自分」を出せた。自分だけではなく皆も、お互いがお互いに会話や行動を通じてコミュニケーションをとり、一つの大きな輪が築けたと感じる。だが、まだ輪が欠けている部分もあったので、それをこれから補っていけるよう、そしてもっと大きな輪にできるようにしたい。

次に、2つ目の目標である「大平ゼミに圧倒されぬよう、事前に対策を練って自分の考えを伝える」は全く実践することができなかった。大平ゼミだけでなく、JRとWELCOME HOMEでの企業訪問でも自分の意見を伝えることができず、また、周りが質問をしている中、一つも質問をすることができなかった。自分の中だけで考えを処理してしまい、それを外に出す勇気がなかった。これは大いに反省する点であるが、逆に言えば、そのような場が、自分の弱点であるということに気付いた。菅原ゼミではこの先、このような場をまだまだたくさん設けているので、今回の経験を活かし、このような場を苦手 得意に変えられるようにこれから取り組んでいきたい。

最後の、「北海道の風情・味覚・空気を存分に味わう」は自分だけではなく、ゼミ生全員が存分に堪能できたのではないだろうか。風情では、札幌のにぎやかさ、薄野の華やかさ、小樽の情緒あふれる町並みを感じ、味覚では、北海道で有名な海の幸、ジンギスカン、お菓子を味わい、空気では、北海道のおおらかなおいしい空気をたっぷり取り入れた。日本の中で、あれほど大自然と味覚を感じられる地は北海道以外にはないのでは、と思えるほど北海道を感じる事ができた。

以上3つの目標を通じて、Plan（計画） Do（実行） See（評価）をしっかりとできたものもあれば、Plan（計画） See（評価）だけでDo（実行）ができないものもあった。この合宿で得た経験を今後大いに活かし、どんな場面でも「Plan（計画） Do（実行） See（評価）」ができるよう努めていきたい。

私は今回の合宿にあたって、3つの目標をたてた。それは、

1. 同じ子とばかり話さず、自分と考え方が違う人に対しても先入観にとらわれず、積極的に声をかけて仲良くなる
2. 過去の北海道旅行と今回と違う点は特にJR北海道に行けることなので、それをなくしては得ることのできない知識や考え方を積極的に身に付け、楽しい思い出だけではない、知的刺激のある旅行にする

3. グループ行動では、自分の意見を出すことなく人についていってしまうことがありがちなので、全員が自分の考えをしっかりと述べ、お互いに納得して行動するというものだった。

これを頭に入れつつ、合宿中の出来事や自分の言動を良かった面と悪かった面から振り返りたい。まず、1日目は朝7時に羽田空港に集合予定だったが、自分は誰よりも近くで楽しかったのにも関わらず、あまり危機感を持つこともなく、のんびりしている間に1番遅刻をしてしまった。そして北海道に着いてからは北海学園の大学生と勉強会をし、飲みに行った。この場では北海学園の大学生と近くになったものの、積極的に自分から話せず、席移動にしても来てもらう人に頼ってばかりになってしまった。

2日目は6時に起床し、旭山動物園に向かった。ここでは1日目の北海学園のプレゼンによって勉強してから行くことができたので、学んだ知識を実際に体験したり実感することができ、とても良い経験となった。しかし終わった後に、本当は行きたくなかった、行くなんて思っていなかったという意見を聞き、ショックを受けた。それはお互いに辛いことだったし、全員が自分の考えをしっかりと述べ、お互いに納得して行動する。という自分の目標も全くできていなかったことを意味していた。

3日目は JR 北海道を訪問。朝10時の予定だったが、全員で遅刻してしまった。これには計画性の甘さがあったと思う。計画を立てるのを人任せにしてしまったし、それを確認することも自分はしなかったのだ。着いてからはデュアル・モード・ビークルという乗り物についての説明を受けた。この開発にあたっての企業の技術や考え方を素直にすごいと思った。更に、その担当者の方々の原動力となっている「夢を持っている人には希望がある」という信念に深く感動した。

この後は「Welcome House」という NGO 団体を訪れた。ここでは代表者のジェームズさんと在日外国人の方の辛い立場を考えることができた。その後、2日目にしっかり意思疎通ができていなかったことを、女子4人で話し合い、やっと全員が自分の意見を述べ、お互いを理解して、この日まで抱えたままだった問題を解決することができた。

4日目は個人行動で小樽へ向かった。ここで実感したのは、所持金が少なすぎたことである。必要経費まで友達に借りることとなってしまい、買い物は何もできなかった。何か、自分にとって思い出に残る物やお土産を買っておきたかったので、自分の用意の悪さを痛感した。また、友達にも迷惑をかけてしまった。そして帰りは9時35分発の飛行機に乗ったが、行きとは違ってチケットをばらばらに配ってもらったのがよかったと思う。大体どこもいつものメンバーでかたまってしまうので、あまり話せなかった先輩たちとも話せた良い機会となった。

こう振り返ってみると、目標1はあまり果たせなかったと思う。もちろんこの合宿で新たに仲良くなれた人もいるが、全体を通してあまり話せなかった人がいたのも事実である。しかし、正直、最初は苦手だったり怖そうだと思っていた人たちが実はとても気を使ってくれたことに気がつき、やはり先入観に捉われず、一人一人の表面ではなく中身を、お互いに見つめ合っていくことが大切だと改めて思った。

目標2については JR 北海道の技術にもそうだが、何よりその信念を知ることができてとても良い体験となった。大人になっても、そのような気持ちを忘れないで突き進む姿はとても素敵だと思う。

最後に目標3は、1日目、2日目においてはあまりできていなかったと思う。ただ、それを合宿中に気付いて、放置してしまいがちになってしまうその状況をちゃんと話し合いによって修正できたの

は、全員にとって大変良かったことだと思う。

- こう考えると、
- 積極的に自分から声をかけること
- グループ行動において、全員が納得できる行動をとること
- 時間にルーズにならないこと（遅刻厳禁）
- お金を多めに持つこと

この4つが今回の反省点であり、今後の課題である。 については、あまり自分の意見を言えなかったり、遠慮をしてしまう人に対して、ちゃんとどうしたいかを質問するようにし、 に関しては準備（用意）段階がしっかりできていないことが原因だったので、どのくらいかかるか、いくらかかるか、といった計画を立てるようにする。

## 初めての合宿、初めての友達 二年 本村 圭

- 1、合宿の総括
- 2、ゼミ全体を通しての改善点
- 3、感想

### 1、合宿の総括

九月下旬に菅原ゼミに入り、二ヶ月が経とうとした十一月十日に北海道合宿が始まった。まだゼミに馴れておらず、そんな中合宿に臨んだ。手探りの状態で、苦労や困難覚悟であった。合宿にて悪い点が顕著に現れたのは班行動であった。私たちの班は事前にどこへ行くかを話し合っていなかった。そのため、班行動の内容を一日前にみんなで話し合った。しかし、付け焼刃にも関わらず二日目の自由行動では、北海道大学、雪印工場、サッポロビール工場を見ることができ、時間を有意義に使うことができた。

その中で、菅田君と松下君はみんなを引っ張ってくれた。リーダーがいるのは良いことだが、やや任せすぎであった。自分の中で誰かがやってくれるという甘さが露呈してしまった。班行動では、行く先が決まった時点で皆プランを考え、事前に会議をして、考えたプランを寄せ集めて一つのプランを決定することが最善の策だと思った。そうすることにより、行く場所の情報を個々に確認でき、決して人任せにならず、当日トラブルがあって場所の変更を余儀なくされても他にもプランがあるので対応できる。

良かった点は、みんなと仲良くなれたことだ。学園祭を経た時であったが、まだしっかりと会話をしたことがない人が多数いた。合宿ではみんなと話す機会がたくさんあり、お互いがどういう人であるかがしっかりと確認できた。

この合宿で、菅原ゼミに入って良かったと心から思った。入らなければ貴重な体験は出来なかったし、こんないい仲間と出会えることが出来なかった。この先いろんな困難に陥り、辛い時がきっと来るだろう。NGO訪問で訪れたうえるかむはうすのジェームスさんは教えてくれた。互いに手を取り合い生きていく喜びを、大切さを。その教えを感じて、励ましあっていきたい。私がこの合宿で得たものは、友達である。

## 2、ゼミ全体を通しての改善点

夜眠ることを怠り、遅くまで起き、寝不足にみんな陥った。中には企業訪問でも居眠りをしている人がいた。わざわざ私たちのために貴重な時間を割いてくれたのに、その様な態度を取るのは遺憾である。体調管理は自己責任なので、寝ることへの意識を個々にもつべきである。

## 3、感想

終日みんなと行動を共にしたので、ひとりひとりがどういう性格であるかが分かった。みんな個性的で縛られることを嫌い、自由に動きたがる。私は今まで受動的な人間で、みんなの行動に圧倒された。待つのではなく、自分から動いていたからだ。『受身から積極性へ』菅原ゼミのテーマを自分の中で強く芽生えさせていきたい。次回は海外での合宿になる。もっと分からないことが増えていくので、事前準備をしっかりとやりたい。

得られたもの

2年 石原 未央

今回の合宿では目標は80%達成できたと自分自身で考えている。

### 1、団体行動に積極的に参加

団体行動が本当に苦手ということが再度確認できた気がする。しかし、苦手だからどうすればいいか、という解決策は見つかった気がする。まだまだ、私は子供だと考える点多々あり、今後このゼミの一員として団体行動がとれる人間になりたい。

### 2、普段、決してできない学生交流会・企業訪問

北海道学園大学との交流会

施設や交通の便のよさ、プレゼンに、圧倒された。分かりやすく、丁寧で見やすいように工夫もされていて私もあのようにカッコよくプレゼンができるようにこれから努力していきたい。

又、勉強会終了後、グループ活動についてどこに行ったらいいかという質問に対しても一生懸命やっていただいたので非常に好印象でした。

企業訪問では自ら積極的に質問などでき、又、「働く」という意識が強まった。

JR 北海道での佐藤さんのお話

技術や、知識というのは持っているだけはいけない。それを生かして新たに新しいものを作り出してこそ本当の意味があると分かった。

ウェルカムハウスのジェームズさんのお話

自分の体験を元に日本で暮らす外国人のためのボランティア活動というのはなかなかできないかと思う。海外生活で困っているのにさらに他人のために働くというのは極めて難しいと考えられる。しかし、彼はそれを成し遂げている。とてもすばらしいと思う。

### 3、全体のまとめ

私自身プライベートな部分で見直さなければならない部分が本当にたくさんあった。団体行動は本当に難しく、大変。一人一人価値観、考え方が違い、見方も違う。

何が一番難しいといえばそのように価値観が違う人々とのコミュニケーションだ。

同じゼミの仲間ということだが、私自身、壁があるため、それをまず、打破していかなければならないということが、私自身の大きな課題だ。

今回の合宿でこのような課題が得られて本当によかったと思う。

## 北海道合宿を通して考えたこと

2年 西川 行介

今回のゼミ合宿のレポートは、以下の3点にまとめて述べることにする。

企業訪問について

NGO 訪問について

今回の合宿の良かった点と改善すべき点

企業訪問について

今回の企業訪問は、JR 北海道の苗穂工場で行われ、技術開発部の佐藤 巖さんにお話を伺った。今回の企業訪問にあたり、本ゼミの卒業生である富田さんのご協力を賜ったことに感謝申し上げたい。さて、今回の企業訪問では、佐藤氏が中心となり開発した DMV という乗り物について紹介された。これは、マイクロバスを改造し、道路とレールを自由自在に行き来できる乗り物で、顧客が激減し、経営悪化に苦しむ地方路線の経営向上に期待されている。

私が、期待を寄せているのは、この乗り物が実用化されることによって無駄な公共事業を削減できないかということである。今で、国や地方自治体は増え続ける車の渋滞に対して多額の借金をしてでも、道路を建設し続けた。その結果、大額の税金が使われ、さらに環境破壊が起こっている。DMV はレールという新たなルートを活用し、渋滞回避に繋がると期待されている。さらに、この技術が環境保全に繋がればうれしい。しかし、実用化されるためには、法律の問題があり時間がかかる見込みだ。できるだけ早く実現してほしい。

NGO 訪問について

今回の訪問は、私にとって生まれて初めてのものだった。アメリカ人のマイレット・ジェームズ氏が代表となっている NGO「ふえるかむはうす」を訪ねた。この NGO は、日本人と外国人が共に平和に暮らせる社会を目指し、日本滞在の外国人に日本語を教え、料理講習会を開き、日本や海外でトラブルに巻き込まれている外国人に対し、支援を行っている。ジェームズ氏は、アメリカ人らしく、自分の意見をはっきり持ち、正義感の強い人で、そのまっすぐな姿勢に感銘を受けた。

話を伺った中で、私が、特に関心があったのは、この NGO のスタッフであるシスターが、話してくれたある女性のことである。彼女は、ベトナム出身で日本に来たのだが、日本に行くための片道の航空券しか買えず、ほとんどお金がない状態だった。言葉が通じなく、月に数百円で、50 円でキャベツを買い、それをスープにして毎日空腹を促す状態だった。彼女が日本に来た理由は、日本の大学で学び、自分の

国を外から見たいといことだった。今、彼女は、この NGO の支援を受けている。私は、外国から来た留学生に対し、軽視して見てた面がある。しかし、留学生は大変な苦勞をしている。このゼミにも留学生がいる、彼らについてもっと深く知れば、日本で起こっている外国人に対する差別も、無くなるのではないだろうか。

最後に一つ言いたいことがある。是非ドアを開けて、企業や地域社会との結びつきをしてほしいと思う。例外を除いて「NGO は、NGO にしかできないものがある」ということを聞く。その通りだと思う。しかし、それだけでは、活動が限定され、せっかくある素晴らしい素質も伸ばすことができない。今の状態に甘んじるだけではなく、活動を伸ばしてほしい。

#### 今回の合宿で良かった点と改善すべき点

全体をまとめる前に、私個人の失敗について述べたい。最大の失敗は、当日に体調を崩し初日行くことができなかったことである。この日は、現地の大学生との交流会があり、これまでの研究成果について発表することになっていた。自分の力を伸ばすチャンスだったので、参加できなかったのは、非常に残念である。これを挽回するために、企業訪問や NGO 訪問に参加したが、思うように成果が上がらなかった。具体的には、あまり発言をしなかったことである。せっかくあるチャンスを無駄にするのは、時間を無駄にしていることと同じである。この失敗を見つめ直して今後のゼミ活動にいかしたい。

最後に全体を通して良かった点と悪かった点について述べたい。まず良かった点は、チームとしてのまとまりがとれていたことだ。具体的には、コミュニケーションが取れていたことだ。今回の合宿で、友情の絆が深まり、お互いのことを知るようになった。そのことにより、今まで距離があった人間関係も一つに繋がった。もう一つ言えることは、積極的に参加していたことだ。NGO 訪問でも企業訪問でも積極的に質問をしていた。その姿勢は、良いことだと思う。改善すべき点は、まず私語だ。学生であっても大学生は、社会人として見なされる場合がある。わきまえて行動しないと人間性を疑われてしまう。今回の合宿は、一人一人が目標を持ち、それを最大限生かすことを目的とした、この合宿で得たことを今後の生活に生かしたい。

#### 考察

大学生 = 社会人として最低限のマナーを守ろう。

チームとしてのまとまりを得るため「ほうれんそう」をしっかりとろう。

今回の失敗を次の海外研修に生かそう。

#### 実りの多かった北海道合宿

2年 武田 燈

今回の北海道合宿のレポートを書くにあたり、合宿に行く前に立てた目標の3点について、さらに3つに分けたい。1つ目は良かった点について。2つ目は悪かった点、改善点について。3つ目は合宿で得たものについてである。

(1) 北海学園大学との交流、企業訪問で、自分を高めたい。

今回の合宿では旅行係ということもあり、向こうのゼミ長と連絡を密に取り合うことができ、勉強会以外は事がスムーズに行えた。なぜ勉強会以外かというのは反省点で詳しく書きたい。

企業訪問では、きちんと自分の意見、質問を言えることができた。特に welcome house の訪問では、差別の無い社会と言われている現在において、外国人に対する差別を間の辺りに感じる事ができ、私の身の回りにある差別を少しでも減らす努力をしようと考えた。

勉強会の題をきちんと決めていなかった為、互いの発表の内容があまりにも違ったことで、ちゃんとしたディベートができなかった点、急にディベートを行うことになり、相手の学生の数をきちんと揃えることが出来なかったのは事前準備がアマかったからだとして反省した。

企業訪問の反省点は1度質問したら後、終わり。ではなく、もっとたくさん質問するべきだったと反省している。その為には、どこへ行くか決まった時点で、その情報を自分なりに調べることにしたい。どちらにも共通して言えることは事前準備の詰めがアマイということである。

## (2) ゼミ生との交流

この合宿で、話してない人がいないのは勿論、毎日全員と何らかの会話をする事ができ、合宿前から仲の良かった人も、そうでなかった人とも、かなり仲良くなる事ができた。今後も皆とたくさん話し、心から話せる仲間になっていきたい。

ゼミが始まって、少しの期間しかないまま迎えた合宿ということもあってか、グループ内で揉め事が起きたが、皆で心から言い合ったことで解決できた。これは解決できたので本来は良い点なのかもしれないが、一応悪い点に入れておきたいと思う。

## (3) せっかくの北海道なのだから、お金と時間に糸目をつけない

1日目の向こうの発表を聞き、急遽グループ行動で旭山動物園に行ってきた。観光バス込みで4,500円、片道約二時間半と少々、大変に思えるだろうが行って良かったと思っている。動物園と聞くとどこも同じ様に思うかもしれないが、動物の見せ方が違っており新鮮だった。また「もぐもぐタイム」というので、白くまのダイブを見ることができ、非常に貴重な体験ができた。

帰りは前日に聞いた地元の人が絶賛するジンギスカン屋で、ご飯を食べることができた。1時間並んだものの、地元の人が言うには「こんなに少ないのは珍しい」ことらしい。

何時までホテルに帰ればいいのか正確な時間が分からず夜景を見ることができなかったこと、蟹を食べてこなかったのが残念だ。その為には、もっと細かく計画を立てるべきだと感じた。

## 合宿で得たものについて

今回の合宿で得たものは、やはり良き仲間だ。合宿に行く前と後では明らかに違う友情を感じることができる。

また、何事もスムーズには行かないということだ。これは報告・連絡・相談が不十分だったことが理由として挙げられる。この反省点は先代の先輩方の合宿後のレポートにも、必ずと言っていいほど同じようなことが書かれていたので、この反省をするのは本当に今回限りにしたい。そのためには、合宿に

行く前やホテルでも事前にミーティングを行うようにし、特定の個人間だけの連絡ではなく、皆が一人一人、次にどんな行動をするのか把握できるようにするべきだと感じた。

本当に今回の反省点を無くすためにも、これ以降は3年生ばかりに責任を押し付けるのではなく、もっと率先して動くようにしたい。

## 北海道合宿について 2年 佐藤 仁康

今回の合宿の自分の目標は次の2点でした。

- 1、 現地の大学の人との交流をもつ
- 2、 ゼミ内の人と交流を今まで以上に深める。

この目標について自分ではよくできたのではないのかと思います。

まず、一つ目の目標ですが、現地の、今回に関して言えば、北海道の学生にしかないもの、特有のものを学びたいという目標でした。このことに関していえば北海学園のプレゼンに表れていたのではないかと思います。海水屋という海洋層水という今までに聞いたことがない水を大学生自身が販売していることや、全国でも有名な旭山動物園の話など、東京には聞けない話を聞くことができました。特に旭山動物園についてのプレゼンでは、北海道の目線から、どのように動物園が再生され、全国区のものになったのかが、分かりやすく述べられていたと思います。そのなかでも、旭山動物園にあるバイオ式トイレの話にはとても興味と関心を持ってました。自分も実際に行ってみて、バイオ式トイレを見てきましたが、今まで見たことのないそのトイレは新鮮なものでした。その後の合同コンパでも、自分だけでなく、ゼミ生みんなが現地の学生と交流をもてたのではないかと思います。

2つ目の目標。ゼミ生との交流を深めること。このことに関しては今回のゼミ合宿は非常に役立ったものではないのかと思います。やはり、3泊4日の間、行動をともし、お互いが協力しなければならない環境は必然的に交流を持つことにつながるからです。また今回はグループ行動もあり、丸1日の間、同じ人と、計画を立て、動かなければならない。自分のわがままは通用しない。同学年の人に限らず、先輩とも交流を深めることができたきっかけだと思います。とは、言ってもまだまだそれぞれの分からない点は多々あるとは思いますが、ゼミが始まって初めてゼミ生みんなで動いた合宿というところから、この先のゼミ生活に支障をきたすような関係にはならず済んだのではないかと思います。

しかし、全てがうまくいったとは思いません。自分を含めて、反省しなければならなかったことはあると思います。その一つが企業訪問と、そのあとのウェルカムハウスの訪問です。まず、企業訪問では、質問事項などは考えていったものの、実際には質問することができず、後悔しています。また、もっと色々なことが調べられたのではないのかとも思います。それは、ウェルカムハウスについても同じことが言えると思います。もう少し早めの準備が必要だったのではないのかという点では今回の合宿で一番反省するべきところだったのではないのかなと思います。

今回のゼミ合宿を通して、まだまだいたらなかったところは多くあると思います。これから3年生頼りではなく、自分たち2年生が先頭にたつてこのゼミを盛り上げていきたいと思うと同時に、来年の春には新しい後輩が入ってくるので、恥をかかないようなものを見に付けつことが大切だと考えさせるゼミ合宿だったと思います。

## ゼミ合宿での個人目的の結果

2年 安藤 正一

- 1、交流会について
- 2、企業訪問について
- 3、全体について

### 1、交流会について

北海道学園大学の方と交流会をしたとき、自分達はゼミ長が菅原ゼミの紹介をして終わりましたが、向こうはゼミだけでなく、自分たちで経営しているお店の紹介や、東京からきた私たちのために地元のことを4人に分けて紹介していただき、そういうプレゼンの仕方もあるのだということが勉強できました。また、その後のディスカッションの場では、質問しやすい環境を作っていただけて積極的に様々なことを聞くことができ個人目的を達成できました。

### 2、企業訪問について

JRを企業訪問させていただいて思ったことは、プレゼンのレベルが高くわかりやすい、また実際に体験させる説明の仕方が企業というものだということがわかりました。ただ、企業というものを知り就職へのいい刺激を受けることはできたが、個人的に質問をすることができなかつたので、積極性にかけていたかと思います。

### 3、全体について

全体を見て目的としていたゼミの仲間との関係もよくなり、誰とでも気軽に話せるようになれた。また、関係がよくなったことによって、報告、連絡、相談がいろんなところであることができ、スムーズに事を運べた。そして、最重要目的の積極性は場面によって変わってしまうので、いつでも積極的になれるようになりたいと思う。

## 北海道研修旅行で学んだこととそれについての反省

2年 滑川 達規

### 合宿で学んだこと

初日にゼミ長と北海道のゼミ生がパワーポを使い、それぞれ自分のゼミでの活動報告についてプレゼンしていた。逆の立場であつたら到底まともにプレゼンできなかった。お互いにとてもうまくプレゼンがまとめられていてそれにただただ感心してばかりだった。いつか自分もこんな機会があると思うと不安になってくる。しかし、とにかくこれからプレゼンすることに慣れて少しずつ自分の意見をわかりやすく伝えていけたらとそして、質問があつても動じることなくはっきり意見を伝えたいと思った。

最終日の個人行動で北海道の旧道庁での資料館を見学した。そこで印象深かったのは北海道の地図と北海道での戦争の記録だ。北海道の地図は伊能忠敬などの資料を基にして、三年がかりで作られたものでその地図もとてつもなく大きく、それぞれに地名、川、山、岬がひとつひとつとても細かく几帳面に記されているのを見てとても驚いた。ここまで来るとひとつの芸術に見えてしまうほどだった。戦争の記録も生々しかった。特に、戦時中の兜が銃による弾痕で穴だらけになっているのを見たときだ。とんでもない修羅場になっていたことが、自分にもはっきりと理解できた。そして、そこから立て直していく人々は強い行動力を持っていると。そして、この人たちの上に自分たちが「生きている」ことを忘れてはならないと思った。

「うえるかむはうす」での話では外国の人に対する差別や偏見、軽蔑がなかなか消えていないということを知った。これから国際的に協力し合っていく時代になっていくだろうから、まず、ゴミ拾いといった簡単なボランティア活動から出会いを広げて外国の人々との交流を深めていけたらいいのではないかと感想を持った。

#### 自分の目標と反省

自分の目標は三つあった。ひとつは、ほかのゼミ生との親睦を深めること。二つ目は、自分の体調管理をしっかりする。最後は、団体行動のときに自分勝手な行動をせず、且つその団体行動のときに積極的に自分から参加する。以上の三つだ。

自分が一番に目標にしていたことはゼミ生との親睦を深めることだった。合宿に対して自分は楽しいという気持ちよりも不安が強く、心配でならなかった。しかし、この機会で自分なりにゼミ生に話しかけることによって、自然と避けていたゼミ生との距離を縮めることができたのは、この合宿での大きな成果だったと実感している。ただ、それが団体行動になると消極的になってしまい自分から参加する気持ちがあっても、頭の中が真っ白になってしまい、何もできなかったことが心残りであり今後の課題だ。二日目のグループ行動と三日目のJR、うえるかむはうすでそれが特に顕著に現れた。

二日目では、積極的な人同士でどんどん話が進み、自分の意見を挟むことができかった。そして、三日目の「うえるかむはうす」では、質問すら投げかけることができなかつた。とはいえ、なんでもかんでも質問をすれば言いわけでもない。JRの訪問のとき質問はできたが、以前の質問した人との意見が被ってしまった。人の話をきちんと聞くことができなかつた結果起こってしまったことだ。だから、積極的に参加するのはいいとしても、ただ闇雲に質問するのではなく、きちんと人の話を聞いたうえですることも大事だということを知った。

体調管理は睡眠もきちんととり、ハメをはずし過ぎない程度に抑え、体調不良も起こることなく無事に帰ることができた。

#### 新しい課題

新たな課題として出てきたのは、事前に計画を綿密に練っておくこと、そしてその目的先に事前に訪

問することを連絡することである。二日目のグループ行動のとき、企業訪問をアポイントなしで訪問をした時のことだ。一社を除いて、当日には無理があるということで NG であった。ここで社会の常識は自分たちの大学生活のような甘いものではないということを認識させられた。また、同じ連絡という点で、最終日の小樽オルゴール堂に集合する時に全員とすれ違いになり、そのままずっと待機していたままだった。少しでも疑問があるまたは不安であったらすぐに連絡をするということができなかった。連絡があったからよかったもの何の行動も起こせなかったことが恥ずかしく感じた。先輩が話した「ホウ、レン、ソウ」が如何に重要なことが再認識させられた。

#### 最後に

自分が立てた目標を予想よりは達成できたと感じた。しかし、新しい課題も生まれてきた。ただ、これを繰り返していくことにより、目標も大まかなものから具体的なものになり、結果として自分をステップアップしていきたい。

他の人と話すのが楽しく、今までふさぎ込んでいた自分にとってとてもありがたく感じた。自分にはまだまだ堅苦しい部分が残っている。それを少しずつ取り除いていけたらと思った。

